



第15回 シンポジウム

日本の動物園の必要性を 改めて考える・パート2

主催: 特定非営利活動法人 国立動物園をつくる会
共催: 日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム
後援: 公益社団法人 日本動物園水族館協会(予定)

日時: 2020年5月9日(土) 13:00~17:00

場所: 日本獣医生命科学大学 東京都武蔵野市境南町1丁目7-1
(具体的な講堂につきましては3月下旬に決定)

※一般、学生の方も参加いただけます。動物園関係者、飼育担当の方のご参加歓迎。

参加費1,000円(税込)

事前予約が必要です。

日本獣医生命科学大学学生無料
(受付にて学生証をご呈示ください)

〈プログラム〉(予定)

基調講演 1

島 泰三

動物学者
日本アイアイファンド代表

「アイアイを助けよう」

基調講演 2

牛田 一成

中部大学
創発学術院
応用生物学部
教授

「野生復帰を目指した
動物飼育の課題と展望」

基調講演 3

太田 能之

日本獣医生命科学大学
応用生命科学部
教授

テーマは未定です。

基調講演 4

金子 美香子

多摩動物公園
副園長兼飼育展示課長

テーマは未定です。

パネルディスカッション

- 島 泰三 ●牛田 一成
- 太田 能之 ●金子 美香子
- 土田 さやか
(中部大学 創発学術院 特任講師)
- 司会・ファシリテーター
川中嶋 良雅
(国立動物園をつくる会メンバー)

※内容、時間に変更になる場合がございますご了承ください。



特定非営利活動法人
国立動物園をつくる会
Meeting to consider the Japan National Zoo



参加お申込みの方に会場にてオリジナル竹紙製
ファイルフォルダを進呈いたします。(絵:あべ弘士)

国立動物園をつくる会

検索

<https://kokuritsudoubutsuen.or.jp>

参加お申し込み・お問い合わせはホームページからどうぞ



facebookからのお申し込み・お問い合わせは
受付しておりません。



日本における動物園の役割を考え、持続可能な社会構築に貢献する動物園を目指し、動物そのものの徹底解明のみならず生息する自然環境や社会環境、地域の文化に至るまで、地域の人々や、大学、研究機関と共同して日本のふるさとを守る広範囲な活動ができる体制を整える必要を感じ、国立動物園という機構が必要であると考え活動しています。

第15回 シンポジウムを 開催するにあたって ご挨拶



当NPO法人は、これまで我が国の動物園の社会意義、必要性、そして更なる改革の方向性を探るべく、様々な角度から議論してきました。

我が国の動物園は、明治15年に現在の恩賜上野動物園が農商務省天産部の博物館の附属施設として設立されたのが始まりです。当初の動物園は、珍獣、奇獣を観覧するレクリエーション施設という意味が濃厚だったかと思われますが、今日の動物園は、水族館と共に、地球上の貴重な野生生物の種を保存する域外保全の重要な拠点として期待されています。そしてそのための前提作業として、自然環境に対する一般の人々への普及啓発、意識改革の場、すなわち環境教育の場としても期待されています。しかるに現在の動物園水族館の大半がこういった社会的役割を実効性をもって果たしているかといえば、お世辞にもそうはなっていません。園館によっては、動物愛護や動物福祉も無視したエンターテインされた展示が横行したり、時として虐待と思しき展示すらあります。現在我が国には500を超える動物展示施設があるといわれていますが、そのうち（公社）日本動物園水族館協会（JAZA）に所属する動物園は91園です。日本には、動物園に対して、然るべくその経営実態に対して誘導又は規制する法制度が存在しません。これでは「種の保存（域外保全）」も「環境教育」も空文化しますし、何よりも懸命に努力している園館も法的に保護されません。

私たちNPO法人は、そういった動物園の法的基盤を整備し、種の保存、そのための調査・研究、さらには国民への自然環境保全に対する普及啓発を推進するために、また劣悪な施設への規制強化を目指して動物園法の制定を構想しています。また昨今では、トキソプラズマ、SFTS などの人獣共通感染症の問題が顕在化、深刻化の一途を辿っていますが、当該問題は、Wildlife Management の問題であると同時に、動物園動物の保全の観点からも重要な問題です。ましてや現行法制度においては、動物園は、当該問題に対して、被害者にも加害者にもなり得るリスクが潜在します。総じてわが国の動物関係の法政策は、脆弱極まりなく、かつ各法制どうしの整合性がとれていない状態です。

私たちは、動物園法の整備の延長の問題として、「国立動物園」の創設も構想して活動をしています。これは先進国としてのわが国が国際社会との架け橋になるための重要なプロセスであるとともに、日本各地の動物園のキーステーションになるものと考えています。

今回のシンポジウムテーマは、「日本の動物園の必要性を改めて考える パート2」です。我が国の動物園が社会から必要、必然の施設となるためには、どういった制度設計が必要なのか。動物園における種の保存（域外保全）に対する調査・研究において我が国は、十分にその責任を国際社会に対して果たしているのか。環境教育とレクリエーションとの整合性、バランスはとれているのか。単なる可愛い、面白いの展示、プレゼンに陥っていないか。こういった視点での検証は、今後の我が国の動物園政策を考えて行くうえでは必須な作業であると考え、当該企画とした次第です。今回は、特に動物園における「福祉」に焦点を当てて各有識者からご講演をいただき、それを踏まえてフロアとのディスカッションを展開したいと考えています。

特定非営利活動法人 国立動物園をつくる会
代表 小菅 正夫

第15回シンポジウム基調講演・パネルディスカッション登壇のみなさま

基調講演 1 パネルディスカッション



島 泰三

動物学者
日本アイアイファンド代表

基調講演 2 パネルディスカッション



牛田 一成

中部大学
創発学術院
応用生物学部
教授

基調講演 3 パネルディスカッション



太田 能之

日本獣医生命科学大学
応用生命科学部
教授

基調講演 4 パネルディスカッション



金子 美香子

多摩動物園
副園長兼飼育展示課長

パネルディスカッション



土田 さやか

中部大学
創発学術院
特任講師



川中嶋 良雅

日本大学生物資源科学部
動物資源学科
野生動物学研究室 卒
国立動物園をつくる会
メンバー

※登壇者変更になる場合がございますご了承ください。